

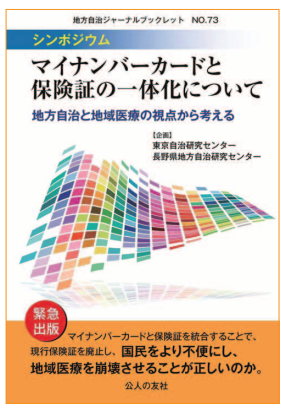


『シンポジウム・マイナンバーカードと
保険証の一体化について——地方
自治と地域医療の視点から考える』
公人の友社、一三三〇円

企画
東京自治研究センター
長野県地方自治研究センター

保険証廃止

三月一日、地方自治法の改正案が閣議決定され、国会に提出されたという報に接しながら本書を読んだ。ムダで有害な改正、根っこは健康保険証廃止と同じ。政府はDXに前のめり。マイナンバーはデジタル社会の基盤となるツールとばかりに、自治法改正まで仕込んだ。



グラビア	地域を支える人 高宮ちあきさん 梅崎春菜さん・熊本市	1
発掘！地域の希望のタネ	〈益子陶器市〉栃木県芳賀郡益子町	5
用務にお任せ!	〈北海道ならではの除雪作業〉北海道苫小牧市	野村征二 6
書評	『シンポジウム・マイナンバーカードと保険証の一体化について』	菅原敏夫 8
緊急寄稿	地方自治法改正案の問題点—「国民の安全に重大な影響を及ぼす事態」に係る特例的関与法制	人見 剛 10
焦点	コロナ禍後も続く生活困窮 —困窮状況は、コロナ禍で広範囲に、そしてさらに厳しい事態に	久保田修三 18

特集

イマドキの自治体広報を考える

インタビュー	シティプロモーション時代の自治体広報とは	河井孝仁	26
	行政広報における対象の変化に関する一考察	岩井義和	35
	ICT時代の自治体広報と高齢者の口コミ機能	田邊直人	43
	「ハッシンしたくなる」仕掛けをつくる —小林市の周囲を巻き込む情報伝達とシティプロモーション	佐藤友和	51
	長野県佐久市リモート市役所の取り組みについて	佐藤 好	58
	漫画を活用したわかりやすい財政状況の伝え方 —福岡県北九州市の取り組み	田中友樹	64
	自治体公式SNSの運用ルールをめぐって	片岡靖貴	69
地域おこし協力隊が行く!	第11回 島根編④大田市 移住失敗を繰り返さないために 複業の繋がりをフルに活かし、居場所をつかむ	西嶋一泰	74
結びつなげる!しまね自治研	小泉八雲が愛した歴史と文化の薫るまち 水の都・松江～松江市職員ユニオンの自治研活動の紹介～	門脇伸介	80
自治研活動レポート	京都市におけるウェルビーイングなまちづくりをめざして—京都府本部	榎田博之	82
	自治研センターの機関誌案内		24
	次号予告・編集部から		84

二〇二三年八月にはマイナンバーと保険証の一体化(実態は保険証の廃止)のメリットを並べた検討会の最終取りまとめで保険証廃止を決め、九月には大量に発生した問題事例の対応を見切り発車。二月二二日には二四年の一月二二日での保険証の廃止を閣議決定してしまった。緊急シンポ・出版

その閣議決定の直前、現行保険証を廃止し、国民をより不便にし、地域医療を崩壊させてよいかを問うシンポジウムが開催された。その内容を緊急出版したのが本書。「勇気を持って立ち止まって撤回」の気持ちが必要だ。

シンポジウムでは、経済ジャーナリスト、保険医団体連合会、弁護士に加えて、東京都世田谷区長、長野県飯山市市長が発言し、マイナンバー保持の困難、地域の診療所を維持することの困難について話した。自治体は国民健康保険の保険者である。だからこの問題は私たち被保険者

の問題であると同時に、私たちの保険者としての自治体の問題でもある。自治体との協議も行わず、保険証の廃止が決められた。驚くべき乱暴さだ。これをきつかけに自治体の声も強まるだろう。しかし、時間はあまり残されていない。

政策・制度に自治研の役割
このシンポは東京と長野の自治研センターが主催した。議論の広場を提供するという役割が自治研活動にはあるのだと思う。出版も緊急体制で。そのくらい深刻で切り詰められた時間の問題。

もう一つ。デジタル庁保険証一体化検討会でも総務省地方制度調査会でも有識者メンバーが問題点を指摘し、はやる役割を果たすことはなかった。残念だけど劣化しているのかもしれない。

シンポ開会の挨拶では市民の役割が求められた。そこにこそ全力で注力。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員